

人と自然の共生する「ツルの里」をめざして

四万十つるの里づくり会のとりくみ

START

スタート

四万十川（中筋川）流域で「ツルの里づくり」がはじまりました

かつての高知県四万十川（中筋川）流域には今より水田や湿地がたくさんあり、生態系が豊かでツルたちが越冬しやすい環境でした。しかし、地域の利便性の向上に伴い自然環境のバランスが崩れてきたため、ツルたちの越冬が少なくなっていました。



えさ場・ねぐらの減少

- 休耕田の増加
- 自然の湿地の減少



安全な生息空間の縮小

- 都市化
- 道路網等の整備
- 人口の増加

ツル類の越冬は現在、鹿児島県出水市に集中しているため、国をあげて越冬地の分散化計画が進められています。四万十市もその有力な候補地となっていますが、ツルたちを呼び戻すためには流域にツル類がすみやすい環境を整える必要があります。



例えばそれは次のような環境です。

- 湿地など、湿生植物が繁茂したり、流れの穏やかな場所を好む魚介類の生息する「えさ場の環境」
- 川の中州など、人間活動のあるところから100mほど離れ、外敵から守られた「ねぐらの環境」

これは開発が進む前の古きよき四万十川（中筋川）流域の姿と似ています。つまり、ツルの里づくりの取り組みは、四万十川の原風景の再生の取り組みであるともいえるのです。



平成18年度

中山地区
えさ場づくり
(もみ撒き)



平成19年度

えさ場・ねぐらづくり

休耕田を借り上げ、もみ撒きや水張りをしてツル類のえさ場・ねぐらを整備しています。

ツルの行動体系の把握調査

ツル類およびその他の鳥類の渡来数や行動を記録しています。

四万十つるの里づくり会のとりくみ

PR・啓発活動の実施

活動への理解や協力を得るため、チラシ、リーフレット等の作成・配布を行っています。

シンポジウム等の開催

ツルの保護活動に対する意識の醸成を図っていくため、シンポジウムや地域の小・中学生に対する自然体験学習会を開催しています。

ACTION

アクション

平成18年度には「学び」を中心とした取り組みを行いました

子どもの学び

四万十川自然再生事業「ツルの自然体験学習会」※1

地域の小・中学生を対象として、実際に体験を通してツル類の保護について学ぶ「ツルの自然体験学習会」を7月と12月に開催しました。

学習会では、四万十の鳥の専門家 澤田佳長氏（野生生物環境研究センター 所長）によるツルの渡来状況や越冬に適した環境等についての講義や、中筋川流域中山地区（四万十市）でのねぐら・えさ場づくり体験（休耕田へのもみ撒き、えさ撒き）を実施しました。また、ツルの保護を訴える看板も設置しました。



現地での学習の様子

※1 国土交通省中村河川国道事務所との連携で「四万十川自然再生事業」の一環として開催。

大人の学び

農村自然再生活動高度化事業「第1回現地勉強会」※2

稲作の終わった水田を耕さず水を張っておくと（冬季湛水）、ミミズやドジョウなど土の中の生き物が活動して土が肥沃になり、それらを食べる渡り鳥たちもたくさん訪れるという話を聞き、12月に勉強会を実施しました。

勉強会では、兵庫県豊岡市の「コウノトリの郷」や山口県八代でのツルの里づくりの取り組みが紹介されました。水田の冬季湛水では、多様な生物を育てることができるだけでなく、それによって無農薬のこだわり米を栽培することもでき、里山の豊かな環境づくりが地域活性化につながっているということがわかりました。



意見交換会の様子

※2 農林水産省「農村自然再生活動高度化事業」の一環として開催。

このほかにも、四万十川（中筋川）流域の休耕田の実態把握調査やツルの行動体系調査などを実施しました。その結果については今後ご紹介していきます。お楽しみに！

四万十川（中筋川）流域の河川敷や水田にツルのねぐらやえさ場をつくります

GOAL

ゴール

私たちがめざすものは…

四万十つるの里づくりの会は、市民の皆さんのご協力により、ツルたちが安心して冬を過ごせる里山環境づくりを進め、それによって地域の活性化を図っていくことをめざします。



ツルの里づくりにより、地域の活性化を図ります

休耕田などを活用し、ツルが越冬できる環境づくりを進めます